

# 学校点描

心電図検査や耳鼻科健診、内科  
検診など延期していた検査・健診  
が矢継ぎ早に行われています。

《K中学校》

NO.11 R2. 9.09

担当：校長

9月3日は体育祭準備の最中でしたが、3年生のH・NさんとN・Kさんは、M地区中学校英語弁論大会（暗唱の部）に出場しました。夏休み中からALTのパコさんの指導を受けながら、一生懸命練習してきました。出発前に、ちょうど英語の授業を行っている1年A組で、本番さながらの発表をしてもらうことにしました。中学生でもこんなに流暢な英語を話せるようになるのかと、二人の努力し積み重ねた英語力に驚きます。H・Nさんは『Jimmy Valentine』を、N・Kさんは『Faithful Elephants』を発表題材に選んでいます。N・Kさんの話の内容は、戦争中に実際にあった話で、動物園で動物を殺すように軍から命令された飼育員が心を鬼にして、手塩に育ててきた3頭のゾウを殺そうとする話です。毒薬が入った注射針はゾウの皮膚が硬く使えないことから食事を与えないで殺すこととなります。ゾウたちは、一生懸命に人が喜びそうな曲芸をしてみせて、食事をおねだりしますが、それもむなしく最後は息絶えていくお話でした。N・Kさんのしみりした話し方から英語を知らなくとも悲しい話であることは1年生にも十分伝わります。

## 0・ヘンリー調の存在感

Jimmy looked at Susan and smiled sadly. "Susan," he said, "I made a promise to myself but I will break it. Only for you, dear. Only for you."

He turned to the safe. His old skills came back to him. In ten minutes the door was open, and the little girl was back in her family's arms

Jimmy heard Susan's voice as he walked toward the front door. He didn't look back.

His life in Elmore City was finished.

Officer Ben Prince was standing at the door.



こんな内容の英語を、すべて暗記して、声の強弱や手振り身振りを加えながら、3年生のH・Nさんは英語スピーチを、1年A組の生徒たちの前で発表してくれました。

あまりにも、見事な発音で英語を話している姿、そして声の抑揚を工夫して表現している姿に、1年生は圧倒されています。

1年生にとっては、まだまだ話の内容までは、理解することは難しいようですが、聞いたことがある英単語を手がかりにどんな話か想像しているようです。

金庫破りの話でした。金庫破りのJim-Valentineは、刑務所で少しも改心せず出獄するとたちまち金庫を荒らします。しかし、ある町でふと見かけたSusan-Adamsに愛情を抱いたとき、別人のように変わってしまい、真面目な商人としてその町に住み着いて働きました。やがてSusanと婚約します。ある日、Susanの姪っ子がいたずらから銀行の金庫に閉じ込められるという事件が起きます。誰も金庫を開けることもできず、窒息するかもしれないと心配するSusanのために、Jimは、金庫破りの道具を再び手にして、子どもの命を救います。誰もが喝采の声を上げる中、黙ってそれを見ていたBenn-Price刑事の前にJimは「とうとう捕まるときがきましたね。」とベン刑事の前に正直に出頭するというおはなしです。

作者は、0・ヘンリーですね。『最後の一葉』『賢者の贈り物』など、誰の心にも残るような存在感のある作品を作りだした有名な小説家です。0・ヘンリーのどの作品にも共通しているものは、どんな環境におかれても最後まで真面目に型通りのことを実直にやりさえすれば、必ず

読者が納得するような人生の幸運な結末が待っているという点です。

実は、0・ヘンリー自身が、お金を横領して刑務所で生活をしたからこそ、人間の实直さや小さな事をこつこつ行うことにこそ、圧倒的な存在感が宿ると考えていたのです。

2人の3年生が発表してくれた英語暗唱は、それを聞いた後輩たちに圧倒的な存在感を与えました。その証拠に2人の発表を終えて感想を求められた1年生のK・Jさんは「発音や手の表現などがすごくて、3年生になったら自分も英語暗唱大会に挑戦したいです。」と語ってくれています。

3年生の存在感を強く感じたのは、5日の体育祭もそうでした。

とても暑い中でしたが、想像以上の感動の中に終わることができました。

終了した後、ある一人のお父さんが、「実は、最初、少ない競技数を見て、生徒も親も満足するか心配だったんです。でも、終わってみると、今までの運動会に負けにくいぐらい感動しました。」と話してくれました。

T・Sさんを実行委員長に、競技の種目内容から、応援合戦から競技点数からすべて3年生の生徒が中心となって考えました。名前を呼ばれた時に、大きな声で返事をするパフォーマンス、応援合戦での恥ずかしさを捨てて“バカ”になってひとつになって踊る姿、敵の組を称える行動、そこに宿ったのは美しさであり、観ている者を圧倒する中学生の存在感でした。

「中学生の力はすごいなあ。」「金山町の宝だなあ。」とその存在感を本気で感じます。そんな体育祭でした。きっと、教師が細かく指導して、「こーしろ、あーしろ」と指示を出したならば、あのような中学生の圧倒的な存在感は生まれることはなかったはずです。

英語暗唱に挑戦してくれた2人の3年生、体育祭をプログラムから考えてくれた実行委員の3年生たち、それを支えた学級の仲間たち、看板制作に没頭した中学生たち、きっと、彼らは「これまでの先輩がやってきた通りに型通りに努力してきた」というのかもしれない。でも、0・ヘンリー調に言えば、地道に型通りに取り組んだ結果、その重ねた努力が、大勢の保護者や後輩たちに圧倒的な存在感という結末を生んだんだよと言いたいと思います。

"Well," Jimmy said to him,  
You caught me at last. Let's go."  
Ben looked Jimmy over slowly. "I think you made a mistake, sir. I don't think I  
know you. And that young lady is calling you"  
Ben Price turned, left the bank and walked down the street.

穏やかにそして、ふっと一息いれて、H・Nさんがスピーチを終えました。

すると、一瞬の間があって、先輩の凄さに圧倒された拍手が教室全体を包み込んだわけです。

「さて」と、ジミーはベン刑事に言いました。

「あなたは、とうとう私を捕えました。さあ、行きましょう」

ベン刑事はゆっくりジミーを見ました。「なにか、人違いしてるんじゃないですか。私が、あなたを知っているわけは、ないでしょう。」

「それより、若い女性があなたを呼んでますよ。」

そう言って、ベン刑事は銀行を去り、通りに消えて行きました。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 [Shinyatk1616n@yahoo.co.jp](mailto:Shinyatk1616n@yahoo.co.jp)